朝日新聞　2007年(平成19年)3月14日

公立夜間中学を

札幌の私塾 立ち上がる

夕暮れ時、明かりがついた校舎に仕事を終えた若者や初老の女性らが集まってくる――東京・下町を舞台にした映画「学校」（山田洋次監督）で、その存在を広く知られた「夜間中学」が札幌市にもある。ボランティアが運営する私塾だが、公立の夜間中学の開設を求める活動を始めた。こうした動きは、全国にも広がりつつある。（山田理恵）

63歳、街の横文字読め世界広がった

スタッフから助言を受けながら勉強する夜間中学の「生徒」＝札幌市の市民会館で

札幌市で会社員や主婦らがスタッフとなって運営する夜間中学「札幌遠友塾」。毎週水曜日の市民会館の会議室。夜6時過ぎから9時前まで、2時限の授業をしている。中学1年から3年までの3クラスに加えて、卒業してもまだ勉強したい人のための「じっくりコース」も。辞書の引き方に始まって足し算、ひらがな、方程式も学ぶ。

登録するスタッフ約60人は全員ボランティア。生徒は30歳～80歳代の男女70人前後だ。

函館市の女性(63)は、列車で3時間半かけて3年間通い続けた。小学3年以降、病気で学校に通えず、卒業証書も出なかった。20歳で完治しデパートや工場に勤めたが、横文字がまったく分からず、「自分には基礎学力がない」と引け目を感じていた。

遠友塾に通い、街中の横文字が読めるようになった。自分の世界が広がるようだった。この春、遠友塾を「卒業」する。

「自分の中で区切りになった。これからは、ボランティアに参加したい」と笑顔で話す。

多くは、戦後の混乱や病気などで義務教育を修了できなかった人たちだが、最近は、在日外国人や不登校の経験者からの問い合わせが増えているという。遠友塾の工藤慶一代表は「大量の教材の保管場所や教室数も必要だ。教師もボランティアだけでは限界がある」と話す。

工藤さんらは先月末、「北海道に夜間中学をつくる会」の準備会をつくった。今後、道や札幌市に、公立学校の開設や学校の空き教室の利用を求めていくという。21日には「北海道に夜間中学をつくる講演会」を開き、賛同者を募る予定だ。

公立の夜間中学を求める動きは北九州市や千葉市など、全国に広がりつつある。教職員らでつくる「全国夜間中学校研究会」は各都道府県に1校以上の夜間中学を置くよう求めてきた。日本弁護士連合会も昨年8月、夜間中学校の増設などを求める意見書を文部科学省に提出。研究会事務局は「多くのボランティアが手弁当でやりくりしているのが現状。行政が実態把握をし、対応を考えて欲しい」と話している。

キーワード

夜間中学　現在、公立の夜間中学は8都府県に35校あり、約2400人が通う。全国夜間中学校研究会によると、民間の夜間中学を運営するのは全国に25団体前後。義務教育の未修了者は、推定100万人を超える。